

紙用稿原聞新日朝京東

平凡 (四十四)

友人といふのは私よりも  
 平素ツキ上  
 といふが、学才も文才も、あ、いふのが天才  
 といふのどらう、昔時分かり辨を捨ててお  
 と。私に此及かり文学の人生に於ける後進  
 を説きつ、聞かせるかて、昔は昔く軽視し  
 ておし文学の世にも難者い物のやうに思た  
 くて来し。今考へて見ると、昔友ら何とて  
 った同好せしもの、強と記憶のほいり、何と









紙用稿原聞新日朝京東

て	了	つ	と	が	、	著	此	文	学	の	本	義	の	や	う	に	、	唯
言	著	を	成	つ	て	文	を	成	し	こ	の	で	、	要	す	に		
そ	の	や	う	な	意	義	を	子	び	あ	つ	こ	に	遠	ひ	早	い	
が	、	新	は	其	語	と	説	く	と	、	何	ご	う	自	分	の	民	衆
の	所	業	と	是	語	と	説	く	と	、	何	ご	う	自	分	の	民	衆
常	の	義	し	か	つ	と	夫	迄	は	中	説	と	説	の	中	で	空	想
新	義	を	成	つ	て	文	を	成	し	こ	の	で	、	要	す	に		
及	者	「	と	、	り	の	博	論	の	中	に	、	要	す	に			
新	義	を	成	つ	て	文	を	成	し	こ	の	で	、	要	す	に		
小	説	と	説	び	、	甲	子	女	と	婚	れ	て	、	オ	レ	リ	ト	

いんせいの東京朝日新聞の稿紙



